

群 教 セ	I01 - 04
	令元.272集
	特一知的障害

児童が各教科等に係る力を発揮しながら 主体的に取り組む生活単元学習の指導

— 「授業づくりシート」の作成と活用を通して—

特別研修員 中川 太一

I 研究テーマ設定の理由

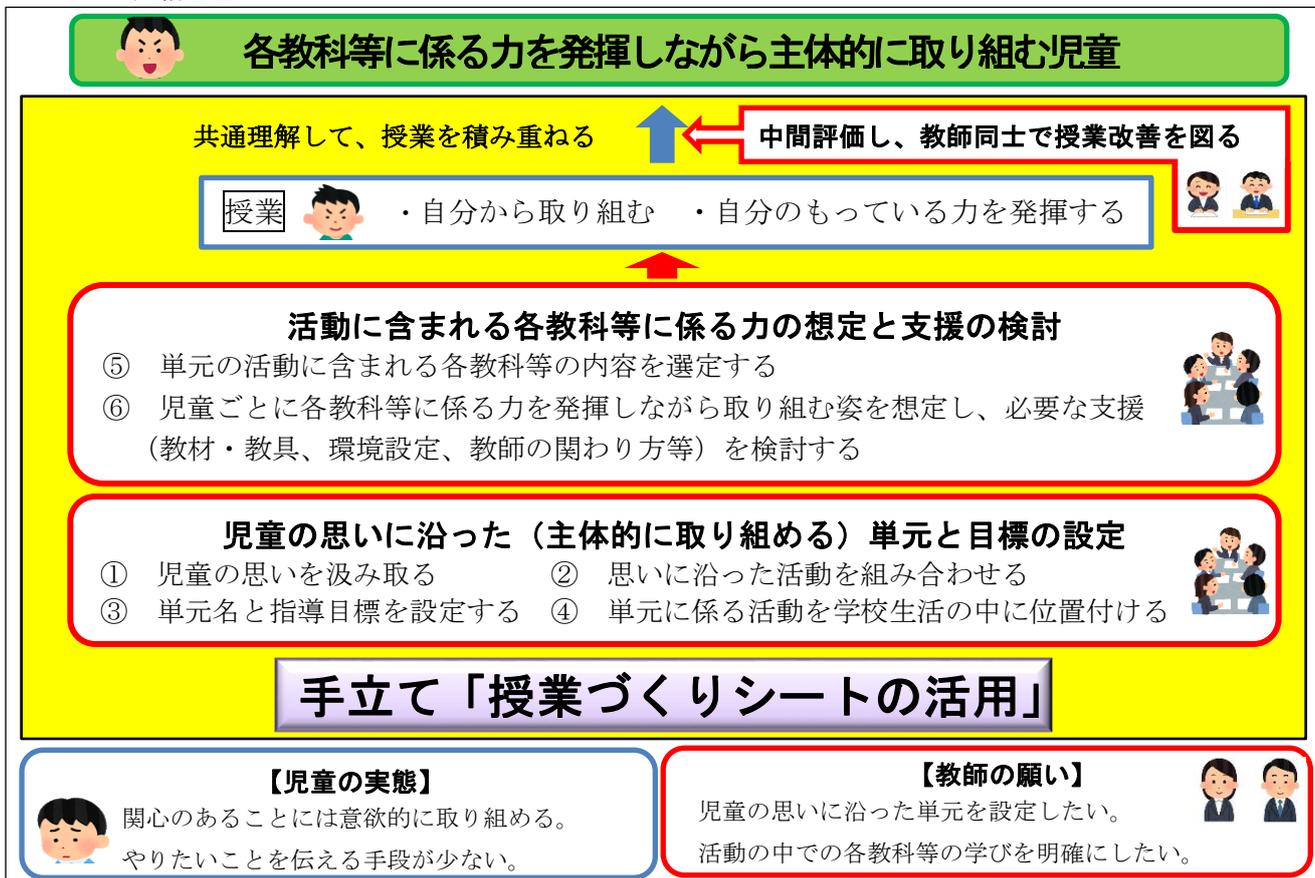
特別支援学校学習指導要領解説各教科等編第4章第2節3(3)において、生活単元学習の指導計画の作成に当たって、考慮する点として「単元は、各教科等に係る見方・考え方を生かしたり、働かせたりすることのできる内容を含む活動で組織され、児童生徒がいろいろな単元を通して、多種多様な意義のある経験ができるよう計画されていること」が盛り込まれた。

これまでは生活単元学習を行う際に、買い物や調理など児童が興味をもちやすい活動が先行した計画になりがちで、指導内容や目標が不明確であったり、話し合う時間がもてず、教師同士で共通理解されないまま進めたりすることが多く見られた。そのため、児童が失敗しないための先回りの支援が多くなり、児童が主体的に取り組んだり、各教科等に係る自分のもっている力を発揮したりする場面が少ない授業になっていた。

このような生活単元学習の改善には、授業づくりの段階において、児童の思いに沿った単元や目標を設定すること、学習活動で児童が各教科等に係る力をどう発揮できるかを想定し、授業に関わる教師同士で共通理解することが必要である。そこで、本研究ではその手立てとして、授業づくりシートを作成した。さらにその活用を通して、学習集団の児童の思いの汲み取りから各児童の支援までを教師間で一体的に検討し、授業を実践していくことが有効と考え、上記のテーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



○手立て「授業づくりシートの作成と活用」

単元構想を行う際に「授業づくりシート」（図1）を活用する。単元構想の流れが明確になるよう「授業づくりシート」は一単元について裏表一枚にする。

「授業づくりシート」の項目①～④は、児童の思いに沿った単元計画と目標の設定を、項目⑤⑥は、活動に必要な各教科等に係る力の想定と支援の検討を行う。

具体的には、まず、個別の指導計画を踏まえながら授業に関わる教師同士で、児童の生活の姿から思いを汲み取り（図1①）、その思いを受けて児童が主体的に取り組む姿がイメージできる活動を複数挙げる（図1②）。その中で、ある目的に向けて児童が繰り返し取り組み活動を深めていけるようなまとまりのある組合せを検討する。また、目的や活動に対する見通しや期待感をもてるよう、児童との合い言葉になる言葉で単元名を付け、単元全体の指導目標を設定し、授業に関わる教師同士で共通理解する（図1③）。組合せが難しい場合には、思いに沿った活動を再検討したり、児童の生活の姿の観察に立ち戻り思いを汲み取り直したりする。そして、設定した目標の達成に向け、一定

の期間において単元に係る活動が児童の学校生活の中に位置付けられるよう単元計画を立てる（図1④）。次に、単元全体の活動を見通し、活動の中にどのような各教科等の内容が含まれるか授業に関わる教師同士で検討し、学習指導要領より各教科等の該当する指導内容を選定する。その際、児童が主体的に活動に取り組む中で必然性をもって学べる内容を選定する（図1⑤）。それを踏まえ、各児童が各教科等の内容に係る力を発揮したり、身に付けたりしている姿を想定し、その姿を引き出すために必要な支援（教材・教具、環境設定、教師の関わり方等）を検討し、共通理解する（図1⑥）。

単元の授業を進めていくに当たっては、一単位時間ごとに⑥の口欄（チェック欄）や余白を使用し授業に関わる教師同士で評価する。授業での児童の様子から、想定した姿が見られた場合はチェックを入れ、支援等で改善点があった場合には追記をして、活動内容や支援を見直し、授業改善を図る。

① 児童の生活の姿と思い（実態把握）				
② 上記の思いに沿って取り組めそうな活動（複数挙げる）				
③ 単元名と目標 児童生徒との合い言葉になる言葉で「単元名」 ↓ 児童生徒に主体的に取り組んでほしいこと 「全体の目標」				
④ 単元計画（活動を学校生活の中に位置付ける）				
導入		展開		終末
⑤ 単元全体の活動に含まれる各教科等の内容				
〈教科名〉	〈教科名〉	〈教科名〉	〈教科名〉	〈教科名〉
⑥ 各教科等の内容に係る力を発揮して取り組む姿と支援				
名前	各教科等に係る力を発揮して取り組む姿	教科名	支援	
□				
□				
□				
□				
□				
□				

図1 授業づくりシート

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 「授業づくりシート」の作成と活用により、児童の思いに沿った活動で構成された単元となり、児童が自分から活動したり、一人でやろうとしたりする姿や最後まで活動に集中する姿が多く見られた。
- 「授業づくりシート」の作成と活用により、各教科等の内容に基づいた指導内容や児童それぞれへの支援が焦点化され、授業では、各教科等に係る自分のもっている力を発揮する姿を見取ることができた。
- 「授業づくりシート」の作成と活用により、一単位時間ごとに児童それぞれの取組の様子を評価でき、単元の途中で児童の各教科等の内容の学びを捉えたり、支援を見直したりすることができた。

2 課題

- 「授業づくりシート」の作成と活用の中で、各教科等に係る力を発揮することを教師が意識しすぎると、児童の思いに沿った活動から離れ、教科内容の指導のための活動になってしまうため、留意が必要である。

実践例

1 単元名 「電車でおでかけ」 (第3、4学年・2学期)

2 本単元について

本単元は、「食べたい」、「遊びたい」、「乗り物に乗りたい」といった思いをもった児童たちが電車を利用した公園や図書館、児童館への「おでかけ」に児童が主体的に取り組む中で、各教科等の学習内容に係る力の習得をねらうものである。児童はこれまで、自分で作ったサンドイッチを持って、校内の遊具がある教室や学校近辺の公園へ「おでかけ」をする学習に取り組んできた。また、1学期の校外学習で電車の振動や音を感じて嬉しそうな笑顔を見せた児童が多かったことから、電車の利用を「おでかけ」に取り入れることで、児童の主体的な活動をより引き出すことができると考えた。

電車で「おでかけ」をする過程には、行先を決めることから始まり、乗車料金やお弁当、持ち物を準備することや校外を徒歩で移動すること、ルールを守って電車を利用することなど様々な活動がある。それらの活動に主体的に取り組むことで、「基本的な生活習慣」、「安全」、「金銭の扱い」(生活科)や「聞くこと・話すこと」(国語科)、「数量の基礎」(算数)等、各教科等に係る力の習得を図る。

以上のような考えから、本単元では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	<ul style="list-style-type: none"> 自分で持ち物等を用意し、電車を利用した「おでかけ」を楽しむ。(全体) 教師と一緒に弁当作りに取り組む中で手順を覚えて自分から取り組んだり、教師の支援を受けながら「(切符)ください」や「ありがとう」と駅員に伝えたりすることができる。(A児) 自分が行きたい場所ややりたいことを教師や駅員に伝えたり、掲示物や料金表、手順表を手掛かりにできるだけ一人でお金や荷物の準備をしたりすることができる。(B児) 自分が行きたい場所ややりたいことを教師に伝えたり、手順表や友達の様子を手掛かりにお弁当づくりや持ち物の準備、乗車料金の支払いに自分から取り組んだりすることができる。(C児) 	
評価規準	関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 自分から、サンドイッチ作りに取り組んだり、駅員に声をかけたりしている。(A児) 「おでかけ」に向けて自分から活動に取り組んでいる。(B児)(C児)
	知識・理解・技能	<ul style="list-style-type: none"> お弁当作りに取り組んだり、切符を買うときに渡す物を用意したりしている。(A児) 教師や駅員に自分が行きたい場所を伝えたり、手順表を手掛かりに持ち物やお金の準備をしたりしている。(B児) 自分の行きたい場所ややりたいことを決めたり、手順表を手掛かりにお弁当作りや持ち物の準備に取り組んだりしている。(C児)
	思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> サンドイッチ作りの次の工程に必要なものに自分から手を伸ばしたり、駅の改札で手に持ったお金や切符を駅員に渡したりしている。(A児) 写真などを手掛かりに教師や駅員に自分の行きたい場所を決めて伝えたり、掲示物や料金表から必要なお金を読み取って準備をしたりしている。(B児) 自分が行きたい場所ややりたいことを教師に伝えたり、お弁当作りや持ち物の準備に取り組んだりしている。(C児)
過程	時間	主な学習活動
導入	第1時	<ul style="list-style-type: none"> お弁当を作り、電車で「おでかけ」することを知る。 行先が四つあることや行先ごとの活動内容を知る。
	第2時～ 第8時	<ul style="list-style-type: none"> 自分が今日行きたい場所を選び、教師や友達に伝え、行先をみんなで決める。 「おでかけ」に必要なお金や持ち物を準備する。 サンドイッチを作ったり、おかずをお弁当箱に入れたりしてお弁当を作る。 交通ルールを守って最寄り駅まで移動する。 自分で乗車料金を支払って、電車を利用する。 目的地で、お弁当を食べ、遊具などで遊ぶ。 電車を利用して、学校へ戻る。
終末	適宜	<ul style="list-style-type: none"> 活動の様子を教室内に掲示し、休み時間などに振り返りを行う。

3 具体化した手立てについて

○ 手立て 「授業づくりシート」

担当する2名の教師で「授業づくりシート」を作成・活用して、単元構想を行った(図2)。

まず、個別の指導計画を踏まえながら、児童の学校生活での姿を観察して、「食べたい」、「遊びたい」、「乗り物に乗りたい」という思いを汲み取った(図2①)。次にそれらの思いに沿った活動やその組合せを検討し、児童の発言を生かして「電車でおでかけ」という単元名及び、「自分で持ち物等を用意し、電車を利用したおでかけを楽しむこと」という目標を設定した(図2②③)。

単元計画の検討では、「おでかけ」が児童の学校生活の中に位置付けられるように、「おでかけ月間」を設定し、週2回のペースで「おでかけ」に取り組む計画を立てた(図2④)。

その後、「おでかけ」の内容にある「行先決め」、「持ち物の用意」、「電車の利用」に含まれる各教科等の内容を検討し、学習指導要領より該当する指導内容を選定した(図2⑤)。さらに、児童ごとに各教科等の内容に係る力を発揮して取り組む姿を具体的に想定し、その姿を引き出すための支援を検討し、整理した(図2⑥)。

一単位時間(おでかけ1回)ごとに、児童の目標に向けた取組の様子について、教師間で話合いの時間(10分程度)を設けた。想定していた姿が見られた場合には□欄にチェックを入れ、改善点等を余白に記入した(図3)。

4 授業の実際

行先を決める場面では、自分が行きたい場所などを単語で伝えることができるように、「川」、「石遊び」等の児童がイメージしやすい単語を添えた「行きたい場所カード」と「やりたいことカード」を用意した(図4)。児童が、カードを選択しミニホワイトボードに自分の気持ちを整理した上で、教師や友達に伝えるようにした(図5)。B児は、写真やイラストを手掛かりに、自分が行きたい場所ややりたいことを選択することができた。その上でカードに書かれた文字を読んだり、自分なりの言葉でやりたいことを伝えたりすることができた。繰り返し取り組むことで、自分から「川で石遊びしたいです」等やりたいことを言葉で表現できるようになった。



図2 作成・活用した授業づくりシート

⑥ 各教科等の内容に係る力を発揮して取り組む姿と支援(一部)

名前	各教科等に係る力を発揮して取り組む姿	教科	支援
A児	☑ジャムをスプーンですくって、パンに付けている。 ☑パンを半分に折っている。	自立活動 自立活動 自立活動	・小さいスプーンを使うことで、繰り返すくえるようにする。 ・パンを固定する支援具を用意し、辺と辺を合わせやすくする。
B児	☑行きたい場所等を単語で伝えている。 ☑表や地図を見て、電車賃分のお金を用意している。	国語 算数	・選択肢を写真やイラストで示し分かりやすい単語を添える。 ・表や掲示物の文字量を調整する。
C児	☑お金やおかずの数を数えている。 □自分で持ち物の準備や片付け、管理をしている。 →おでかけ先での管理が課題	算数 生活	・「何を、いくつ」準備するか、明確に示す。 ・持ち物のリストを提示する。持ち物の置き場所をイラスト等で明確にする。

図3 単元終了後の授業づくりシート⑥部分



図4 行きたい場所カード



図5 やりたいこと

やりたいことカード を伝えるB児

お弁当を作る場面では、個々の実態に応じて文字量や写真を調整した手順表（図6）を用意することで、自分で手順を確認しながら活動に取り組めるようにした。初めは教師と一緒に手順表を確認しながら取り組むことが多かったが、徐々に自分から手順表を確認するようになり、一人で自分のペースでお弁当作りに取り組めるようになった。A児は、ジャムを取るスプーンをあえて小さいものにすることで、手元をよく見て繰り返しジャムをパンに塗る様子が見られた（図7）。また、調理作業用のトレーに食パンを固定する支援具を付けることで、食パンを折る時に辺と辺を合わせて半分に分断することができた。



図6 個別の手順表



図7 サンドイッチを作るA児

おかずを取る場面では、おかずの種類ごとにケースを分けて、「はんぱ一ぐ2こ」等のように一人分の個数を掲示した（図8）。それを見ることで、C児は何をいくつ取るのかを意識することができ、掲示された個数ずつおかずを取って、自分のお弁当箱に入れることができるようになった（図9）。繰り返し取り組むことで、おかずを取るペースも速くなり、自信をもって取り組むことができていた。



図8 おかずを入れたケース



図9 おかずを取るC児

リュックサックに荷物を入れる場面では、B児の持ち物リストにあえて写真を付けずにひらがなのみで表記することで、ひらがなを読む意識を高められるようにした。初めは教師と一緒に一文字ずつ読むことで、表記されている物が分かり、リュックサックにその物を入れることができた。繰り返し取り組むことで、ひらがなを読んで行動することに自信がもて、教師の促しがなくても「す、い、と、う」と自分から持ち物リストを読むことができるようになった。全ての持ち物を自分で入れることができると、「できたよ」と満足そうに教師に報告することもあった。C児は、持ち物リストに写真を付けることで、何をリュックサックに入れるのか明確にし、自分で持ち物の用意をする意識を高められるようにした。初めは持ち物リストの文字を読むだけで自分から取りに行く様子は見られなかった。教師と一緒に持ち物リストを確認しながら、「レジャーシートをリュックサックに入れるよ。ロッカーから持ってこよう」と言葉をかけることで、持ち物を一つずつ取りに行き、リュックサックに入れることができた。繰り返し取り組むことで、自分から持ち物リストを確認して、自分の持ち物をロッカーなどから持ってきて、リュックサックに入れることができるようになった（図10）。持ち物を入れ終わると、自分からリュックサックを背負い、嬉しそうにする様子が見られた。



図10 持ち物を用意するC児

5 考察

「授業づくりシート」の作成と活用を通して、児童の思いに沿った活動で構成された単元を設定し、教師間で共通理解することができた。単元を通して児童は活動に意欲的に取り組んでいた。授業を重ねるごとに、自分から取り組む姿を多く見取ることができるようになり、授業後「次はここに行きたい」と次時を期待する児童の発言もあったことから、児童が主体的に取り組む授業づくりに有効であったと考える。

また、「授業づくりシート」の作成と活用を通して、児童ごとの各教科等に係る力を発揮して取り組む姿を想定し、支援を複数の教師で共通理解した。単元名「電車でおでかけ」の過程に含まれる各教科等の指導内容を具体化したことにより、支援（教材・教具、環境設定、教師の関わり方等）が焦点化された。それを教師間の共通理解の上で指導したことで、児童が各教科等に係る自分のもっている力を発揮したり、身に付けたりしながら取り組む姿を見取ることができた。加えて、一単位時間ごとに、児童の取組の様子について、教師間で話合いの時間を設けたことで、児童の成長に合わせて支援の方法や量を見直すことができた。それらのことから、単元構想の段階で、児童ごとの各教科等に係る力を発揮して取り組む姿を想定することは、児童が各教科等に係る力を発揮する姿を引き出すのに有効であったと考える。

一方で、各教科等の指導内容を指導することを教師が意識しすぎると、児童の思いに沿った活動から離れ、各教科等の指導のための活動になるため留意が必要である。

6 資料

○ 「授業づくりシート」

① 児童の生活の姿と思い（実態把握）



② 上記の思いに沿って取り組めそうな活動（複数挙げる）



③ 単元名と目標

児童生徒との合言葉になる言葉で…単元名「 _____ 」



児童生徒に主体的に取り組んでほしいこと

全体の目標「 _____ 」



④ 単元計画（活動を学校生活の中に位置付ける）

導入



展開



終末

⑤ 単元全体の活動に含まれる各教科等の内容

〈教科名〉

〈教科名〉

〈教科名〉

〈教科名〉

〈教科名〉

⑥ 各教科等の内容に係る力を発揮して取り組む姿と支援

名前	各教科等に係る力を発揮して取り組む姿	教科名	支援
	<input type="checkbox"/>		
	<input type="checkbox"/>		